



夏季休暇期間中におけるアフリカ豚熱、口蹄疫、豚熱等の防疫対策を徹底しましょう

世界的な新型コロナウイルスの感染が継続しておりますが、6月1日以降、一部の国・地域からの入国者に対する検査が免除されたことに伴い外国人入国者の増加が見込まれています。さらに、これから夏季休暇の期間となるため、人・物の移動が活発となることにより、**農場への病原体侵入リスクの上昇が危惧されます。**

病原体の進入を防止するため、飼養衛生管理基準を遵守し、防疫対策の強化・徹底をお願いします。

(1) 畜産関係者の海外渡航の自粛

- 畜産関係者は引き続き**アフリカ豚熱、口蹄疫等の発生地域への渡航を自粛**してください。

(2) 消毒及び衛生管理区域への病原体の持込みの防止の再徹底等

- 必要のない者を衛生管理区域・畜舎へ立ち入らせない。
また、不要な物品を持ち込ませない。
→**立入禁止看板の設置や施錠**などにより対応をお願いします。
- 衛生管理区域・畜舎に立ち入る場合や、物品を持ち込む場合は、**専用長靴・手袋の着用、手指消毒、持ち込む物品の消毒等の措置を確実に実施**する。
→ワクチン接種農場での豚熱発生事例では、豚舎に入る際の長靴・手袋の交換や手指消毒が適切に実施されていない事例が多くみられています。
- 病原体侵入及び感染拡大の原因となる野生動物の侵入防止対策として、**防護柵、防鳥ネット等を適切に設置**してください。設置済の農場においても、**定期的な点検と破損箇所の速やかな修繕**を行ってください。

(3) 飼養家畜の毎日の健康観察、早期発見及び早期通報の徹底

- 異状を早期に発見できるよう、毎日の健康観察を入念に行ってください。
- 豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫等の特定症状を呈している家畜や、その死体を発見した場合は**速やかに家畜保健衛生所に通報**をお願いします。

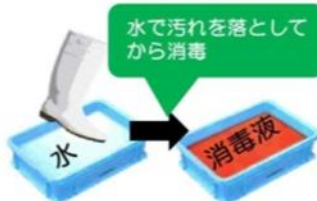
CSF・ASFの侵入防止対策を徹底しましょう!

2018年9月、日本において26年振りにCSFが発生しました。近隣国では、CSF及びASFの発生が継続しており、侵入リスクが高い状況が続いています。

衛生管理を徹底しましょう!



関係者以外の農場
への立入を禁止



農場(畜舎)に出入りする
際には、消毒を実施



CSF

特徴的な症状が無く、気がつきにくい疾病です!

発熱、食欲不振、元気消失等、うずくまり、便秘に続く下痢、呼吸障害等
異状を発見したら直ちに通報しましょう!



写真出典:岐阜県

重症例は後躯麻痺・運動失調・四肢の激しい痙縮などの神経症状、皮下出血による紫斑(耳翼、尾、腹部、内股部)を呈し死亡。

ASF

病状は多岐に渡り、甚急性では突然死亡、
急性では発熱が見られます。

異状を発見したら直ちに通報しましょう!

2018年8月以降
中国で発生継続



病状は多岐に渡り、甚急性、急性、亜急性、慢性の症状を示す。甚急性では突然死亡、急性では発熱(40~42℃)、皮下出血、脾臓の腫大、粘血便、チアノーゼ等を呈し、死亡率は100%に近い。

写真出典:国立研究開発法人農業食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門

詳細情報はこちら(農林水産省HP)

CSFについて:



ASFについて:



口蹄疫の症状

口蹄疫は牛や豚などで発熱や食欲不振に始まり、後に**泡状のよだれ**を流したり、**口、ひづめ、乳房に水疱（水ぶくれ）**ができるのが特徴です。

～牛の症状～

写真：宮崎県提供



<A型口蹄疫ウイルスの感染実験の結果>

写真：動物衛生研究部門提供



上顎口唇潰瘍



水疱が破れている

～豚の症状～



接種3日目

多数の水疱病変を確認



接種4日目

毎日必ず健康観察し、これらの症状を見つけ次第、直ちに**獣医師**や最寄りの**家畜保健衛生所**に連絡しましょう。

牛では、**1頭のみに着目せず**、泡状のよだれを多く流している個体が多い、上記の症状が急速に広がるなど、**群としての異状の有無を確認することが重要**です。

三八地域県民局地域農林水産部 八戸家畜保健衛生所

TEL：0178-27-7415 FAX：0178-27-7418

夜間・土日祝祭日の場合は、家保携帯 090-7069-7714